

海況・サバ・イワシ・マアジ長期漁海況予報

平成28年12月19日に平成28年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報（平成29年1月～6月の見通し）が発表されましたので、その結果を基に本県海域での予報を報告します。

■ 海況

黒潮：5月までは小規模なB型、C型基調で変動し、6月にB型となる。

沿岸水温：伊豆諸島北部海域は「平年並」～「高め」で推移する。

相模湾では、B型時に「高め」、暖水波及時に「極めて高め」、暖水波及が通過後、C型時も半月程度は暖水が滞留し「高め」で経過した後「低め」で推移する。

（語句説明）平年並：平年値±0.5℃程度、

高め：平年値+1.5℃程度

低め：平年値-1.5℃程度

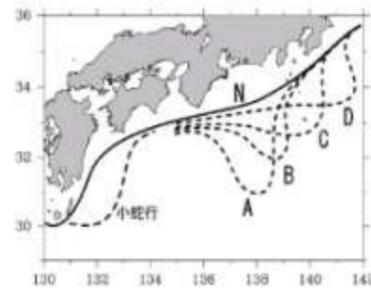


図1 黒潮流型の分類

■ さば類（マサバ、ゴマサバ）

●伊豆諸島海域（たもすくい）

来遊量：前年を上回る。

（説明）マサバ太平洋系群の資源量の増加を受けて、マサバを主体とした好漁が期待されます。漁獲物の主体となる4歳魚の成長が遅れている影響で、魚体は28～33cm主体と小さめですが、来遊量は好漁となった前年を上回る見込みです。漁期当初は三宅島周辺、盛漁期には銭洲周辺にも漁場が形成されるでしょう。



●相模湾・東京湾（定置網、釣り）

来遊量：現時点での予測は困難。

（説明）相模湾・東京湾のさば類の来遊量は海況の影響を受けて変動するため、太平洋系群の資源動向とは必ずしも一致せず（太平洋系群の資源量が多くても、神奈川県沿岸では獲れないことがあります）、現時点では予測も困難です。魚体は、マサバは28～33cm主体、ゴマサバは25～35cm主体となるでしょう。

■ マイワシ

来遊量：低調な前年並。

（説明）マイワシ太平洋系群の資源量は、2010年以降増加しており、太平洋側各地で漁獲量が増加傾向にあります。

一方、2015年級群は近年にない卓越年級群（生き残りが多い年級群）とされており、2016年1月～6月には1歳魚として相模湾・東京湾へ多くの来遊が期待されましたが、殆ど出現しませんでした。その要因として、親潮勢力が弱く東北海域からの南下回遊が芳しくなかったことが考えられます。

2016年級群も資源量は多いのですが、2017年1月～6月も親潮勢力が弱いと予測されていることから、今期も1歳魚の来遊は期待できないでしょう。

なお、2歳魚以上は暖水波及時に、0歳魚（2017年級群）は6月にカタクチイワシに混じり来遊があるでしょう。



■ カタクチイワシ

来遊量：低調な前年並。

（説明）カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2004年以降減少しており、特に黒潮親潮移行域等、沖合域での分布量の減少が顕著になっています。魚体も高水準期を支えた大型成魚（体長12cm以上）の来遊が激減しており、未成魚～小型成魚が主体となってきています。

2017年1月～6月は、親潮勢力が昨年に続き弱いとされていることから、マイワシ同様、南下期にあたる1月～3月は東北海域からの来遊量は少ないでしょう。よって、4月以降、小型成魚（1歳魚：2016年級群）主体に徐々に来遊量が増加するものと思われます。



■ マアジ

来遊量：低調な前年並。

（説明）マアジ太平洋系群の資源量は、1997年以降減少傾向で、相模湾沿岸定置網での漁獲量も2009年以降減少傾向となり、近年は低位で横ばい傾向です。

例年、上半期に相模湾へ来遊するマアジは1歳魚が主体となりますが、2016年下半期のマアジ0歳魚漁獲量が低調であったこと、および東シナ海由来の2016年級群の来遊もあまり期待できないことから、2017年1月～6月の来遊量は低調な前年並となるでしょう。

